



「(仮称)北九州芸術劇場」
事業計画書

北九州市
平成12年11月



目次

. 事業計画方針	
1 . これまでの検討と事業計画への視点	3
(1) これまでの検討とテーマ別の対象者	3
(2) 3つのテーマ実現のための運営体制づくり	4
2 . 事業計画の考え方	5
(1) 目標：【劇場文化の創造】	5
(2) 事業の柱：【北九州劇場文化活性化事業】	5
1) 人材育成	
2) 舞台芸術のセンター化	
3) 国内外の交流	
(3) 具体的な事業展開の方向性	6
1) 地域の創造力を高めるための支援体制	
2) 各種の自主事業への積極的な展開	
(4) 期待される効果	7
. 具体的な事業展開	
1 . 地域の創造力を高めるための支援体制	8
(1) 考え方：「貸し館」を「場を貸し管理するだけ」から 「場を貸しながら才能発掘の場、才能育成の場」とする	8
(2) 具体的な展開	8
(3) 得られる効果	9
2 . 各種の自主事業への積極的な展開	11
(1) 最初の5年間	12
1) 【賑わいの拠点事業】 観客の裾野拡大	
2) 【地域文化の拠点事業】 劇場や舞台芸術をサポート する地域の人材の育成	
3) 【文化創造の拠点事業】 地元演劇人とプロを交えて 完成度の高い作品を制作	
(2) 次の5年間	14
1) 【賑わいの拠点事業】 観客の裾野拡大+ステップアップ	
2) 【地域文化の拠点事業】 劇場や舞台芸術をサポート する地域の人材の定着	
3) 【文化創造の拠点事業】 北九州独自の完成度の高い作品 を制作	
(3) 10年目 「劇場の善循環」の完成	16

「（仮称）北九州芸術劇場」の事業計画書

事業計画方針

1 これまでの検討と事業計画への視点

（1）これまでの検討とテーマ別の対象者

「（仮称）北九州芸術劇場」は、北九州広域都市圏の文化の拠点となる施設である。この施設が、シンボル空間として、多様さと豊かさを実感できる「場」となり、文化の創造に寄与する「場」となるために、「にぎわいの拠点」、「地域文化の拠点」、「文化創造の拠点」の3つのテーマを掲げ、「事業中心の運営」、個性ある文化づくりとして、「舞台芸術の振興」を運営方針としてきた。

この3つのテーマを事業計画方針づくりの視点から改めて見ると、次のように整理される。

1) 「にぎわいの拠点」（鑑賞型文化活動）：対象 = 「市民」（観客）

「にぎわいの拠点」は、魅力的で質の高い公演事業を実施することで舞台芸術を鑑賞する市民の裾野の広がりを図るとともに、祝祭空間として、商業や娯楽的なもの、さらには、産業とも幅広く連携し、広域的な吸引力を持った、北九州広域都市圏の顔として地域の賑わいづくりにも貢献しようとするものである。

つまり、この事業実施においては、「市民」「観客」が主な対象者であるといえる。

2) 「地域文化の拠点」（市民参加型文化活動）：対象 = 「市民」 + 「舞台芸術関係者」

都市文化の基礎となるのは、市民による地域の文化活動であり、この地域の文化活動が都市の文化を創造し、都市の特徴ある文化をつくっていくことになる。

「地域文化の拠点」は、先の(1)から一歩踏み込んで、公演をより深く理解するためのワークショップの開催なども含めて、市民が自ら参加し楽しむ参加型の活動に対して支援を行うことを指す。また施設内のみならず、劇場外活動として芸術をツールとして教育活動(学校、青少年、生涯教育)及び福祉分野での社会貢献を行う。

また、この活動により、舞台芸術等に関心を持つ層を長期的視点で増加させることで、劇場への創客もはかる。

したがって、ここでは「地元舞台芸術関係者」と幅広い層を対象とした「市民」とに視点が置かれているといえる。

3) 「文化創造の拠点」(創造型文化活動) : 対象 = 「舞台芸術関係者」

「文化創造の拠点」は、劇場としての使命や情報発信性から、北九州独自でレベルの高い作品づくりも事業として行いながら、地域における人材育成と活躍の場の形成を目指すものである。この創造の現場は地域の関係者にとって、そのままノウハウの吸収の場となるため、このようなプロセスを通して、ノウハウの蓄積と人材の蓄積を生かしたセンターとしての機能する。この場合の対象者は、地元および全国の「舞台芸術関係者」であると言える。

「文化創造の拠点」は、劇場としての使命や情報発信性から、北九州独自でレベルの高い作品づくりも事業として行いながら、地域における人材育成と活躍の場を形成を目指すものである。この創造の現場は地域の関係者にとって、そのままノウハウの吸収の場となるため、このようなプロセスを通して、ノウハウの蓄積と人材の蓄積を生かしたセンターとしての機能する。この場合の対象者は、地元および全国の「舞台芸術関係者」であると言える。

(2) 3つのテーマ実現のための運営体制づくり

この3つのテーマを実現して行くために、「(仮称)北九州芸術劇場」が、従来の市民会館のような単なる貸館だけの運営でなく、事業を中心とした運営を行うことを運営方針として明確に打ち出してきた。換言すると、「(仮称)北九州芸術劇場」は単なる箱物でなく、学校や病院と同じように、具体的に社会に役立つ事業が行われる場として機能しなければならない。

そのためには、専門的なノウハウを持ったスタッフがそこで活動し、市民と地域文化を作り上げて行くことができる運営体制づくりを構築し、そのノウハウが次の時代に継承されていくシステムを目指さなければならない。

このようなシステムのもとで、それぞれの対象者{市民(観客)、一般市民、舞台芸術関係者}をターゲットとした様々な事業を行うことが可能となり、初めて「公共劇場」の役割りを効果的に果たすことができる。

2 事業計画の考え方

(1) 目標：【劇場文化の創造】

劇場を核とし、舞台芸術活動の「広がり」と「高み」を目指す事業を行うとともに、普遍性のある舞台芸術を劇場内だけにとどめず、演劇等をツールとした「劇場外活動」を通じて地域社会への貢献の行いながら「劇場文化を創造」して行く。

「(仮称)北九州芸術劇場」は、多様な舞台芸術を豊富に供給し、市民を心から楽しませ、賑わいを作りだすと同時に、北九州ならではの「特色、個性」を発信して行く。すなわち、「広がり」と同時に「高み」を持つ事業を行う。

また、舞台芸術に興味ある人（「客席」と「舞台」）を対象に事業を行うのみならず、演劇等の舞台芸術をツールとして教育や福祉の場における「劇場外活動」を行うことにより、舞台芸術という普遍性のある芸術文化をより、市民に浸透させ、さらに地域社会への積極的な貢献を行っていく。

このように、劇場を核として、市民が芸術文化を幅広く享受できる活動を行うことにより、北九州で「劇場文化」を創造して行く。

(2) 事業の柱：【北九州劇場文化活性化事業】

上記のように、北九州で劇場文化を育てて行くことを目標とした事業展開を行うため、事業を「北九州劇場文化活性化事業」と位置付け、事業の柱として、次の3つを取り上げる。

1)観客・人材育成

観客育成等

- ・北九州における舞台芸術振興、および劇場成立の視点から、観客の裾野を広げるとともに、観客の鑑賞力を高めて行く
- ・次世代を担う子どもや青少年が文化活動体験を蓄積していくための場を用意して、個性や創造性の育成・伸長に役立てるとともに、将来の観客を育成して行く

地域リーダーの育成

- ・舞台芸術等の点で一定の造詣があり、例えば演劇ワークショップのリーダーや劇場外活動のリーダー、劇場運営ボランティアのリーダー等として、「舞台」・「客席」と地域を結びつけるリーダーを育成する

舞台制作者の育成

- ・レベルの高い北九州ならではの作品制作に向けて、質の高い舞台制作者を育成する
- #### 劇場運営者の育成

- ・「舞台」と「客席」の双方に目配りした劇場づくりのできる、専門的知識とノウハウを持った劇場運営者を育成する

2) 舞台芸術のセンター化

舞台芸術の創造（作品制作）や劇団運営等も含めて、舞台芸術の情報やノウハウ・人材が集積

- ・舞台芸術に関わる全ての点に関する総合的な相談センターとして機能し、市民の日常的な舞台芸術に関する相談対応、舞台芸術に関する情報発信等を行う
- #### 教育や福祉等における舞台芸術活用のセンター機能
- ・例えば、教育や福祉での効果をねらった演劇ワークショップの開催、芸術文化等における舞台芸術活用などについてもセンター機能を果たす

3) 国内外の文化交流

- ・国内の自治体や劇場や劇団等とネットワーク化を図ることにより、常に最新の情報を入手すると同時に公演の共同招聘等を行うことでコストダウンを図る、また、内外の自治体や文化団体等との文化交流により、舞台芸術等や劇場運営に関する価値観を共有し、レベルの高い劇場づくりを目指したり、相互理解を促進する。

(3) 具体的な事業展開の方向性

以上のような目標・事業の柱を実現するために、具体的には、以下の二つの点で活動を行っていく（なお、各事業の具体的な内容については、それぞれ関連項目を参照）。

1) 地域の創造力を高めるための支援体制《2 (1) 参照》

「貸し館」をこれまでの「場を貸し管理するだけ」から「場を貸しながら、才能発掘の場、才能育成の場」とする。

2) 各種の自主事業の積極的な展開《2 (2) 参照》

劇場の自主事業活動を 10 年間のスパンでとらえ、次の 3 つのテーマごとに 10 年後の目標を設定し、積極的な事業展開を図る。

賑わいの事業 …………… 市民が劇場に足を運ぶことの日常化

地域文化拠点事業 …… 劇場と地域の連携、地域リーダー輩出

文化創造事業 …… 将来の作品レパートリー化を目指し北九州独自の創造力・制作力獲得

(4) 期待される効果

以上のような方針に基づく事業展開により、次のような効果が期待される。

(1) 舞台芸術振興の促進

- ・市民が日常的に舞台芸術に触れることによる生活の豊かさの実現、また、教育・福祉分野での劇場外活動により、受益者の間口が拡大され、アーティストの新しい活躍の場になったり、未来の観客の拡大につながり、ひいては舞台芸術そのものの振興などに大きな効果が期待される

(2) 文化的イメージによる北九州市のイメージアップ

- ・本劇場が設置され様々な活動を行うことで、市民は、日常的に芸術文化に触れることになる。これにより、ファッションや建築、生活文化等まで含めた幅広い部分での個性化、洗練化、つまり、環境や生活全体の「芸術化」が起こることが期待される
- ・さらに、小倉都心部にあたる立地ということもあり、芸術文化に触れる雰囲気を持つ街・市民ということでの、北九州市のイメージアップにも大きな影響を与えると思われる

(3) 雇用機会及び賑わいの創出等経済波及効果

- ・劇場における雇用創出はもちろんであるが、特に本劇場では、専門的な知識とノウハウを持つ劇場職員育成を行うことで、レベルの高い人材育成による経済波及効果を目指していく
- ・また、「にぎわいの拠点事業」実施や、何らかの事業（公演）があるときだけでなく日常的に市民が劇場に足を運ぶ仕掛け作りを行うことで、通常の劇場より一層、周辺への経済波及効果は高まると思われる

(4) 人材交流による質的アップ

- ・国内外の劇場運営者や演劇関係者との積極的な交流により、劇場運営スタッフや北九州市の演劇関係者の視野拡大、レベルアップを図る。さらに、それらを活用して市民との交流を積極化していくことで、市域全体の質的アップが期待される

具体的な事業展開

1 地域の創造力を高めるための支援体制

具体的な事業展開のひとつとして、貸し館事業を地域の創造力を高めるための支援体制と位置付けたい。具体的には、次の通りである。

(1)考え方：「貸し館」を「場を貸し管理するだけ」から「場を貸しながら、才能発掘の場、才能育成の場」とする

- ・ホールを借りる人（劇団等）は、地域の中で舞台芸術についての一定以上のニーズを持っている人々である。したがって、地域の人材発掘や人材育成を考えていく際には、まず、公演等でホールを利用する時をおおきなきっかけとして彼らとの関係性を強化し、また、育成していくことが重要であろう。
- ・しかし、これまでの劇場運営では、貸し館は、劇場事業とは関係のない場所貸しと位置付けられてきた。そのため、劇団等から積極的に働きかけてこない限り、自らの力で活動している地域の劇団等と劇場側の接点がなく、結果として、地域の舞台芸術の拠点施設でありながら、地域の才能の地域外流出を生んできたといえる
- ・以上のような課題を踏まえ、本劇場では、貸し館を、地域における演劇鑑賞者と演劇制作者の豊かな才能が、「劇場」側に働きかけてきたと捉えて、積極的に育成し、関係性を強化していきたいと考える。

(2)具体的な展開

利用者への対応

- ・これまでは管理および禁止が中心であったが、本劇場では、基本ルールを守った上で柔軟な対応を行っていく

利用者との打ち合わせ

- ・これまでは公演内容把握と技術者紹介だけの打ち合わせが中心であったが、本劇場では、技術と制作の双方を交えて、制作上のアドバイスや提案も含めて話し合いを行っていく

貸し館の本番中

- ・これまでは、管理の立場から事務所で終了を待つといった体制であったが、本劇場では、制作の担当者が公演を見て、プロの立場からアドバイスを行っていく

日常的な活動

- ・本劇場では、日常的にも、制作の内容や劇団運営など、舞台芸術に関わるさまざまな点について、いつでも相談にのる体制づくりを行う。これにより、これまでは劇場を借りるといった用事がなければ訪れることがなかった地域の劇団等の人々との関係性づくりが可能となり、また、日常的な劇場の賑わいづくりにも効果が期待される

広報支援

- ・通常、広報においては、劇場の自主事業だけを記載する傾向が見られる。しかし、本劇場では、地域の才能を育てると同時に鑑賞者を育成していく視点から、貸し館であっても、劇場の広報誌や劇場案内等で積極的に広報を行っていくことを検討したい

劇場職員の位置付け

- ・以上のような、地域の人々を育成するための様々な活動は、一部の劇場では行われている部分もある。しかし、一般的には、それらの活動は担当者の裁量に任されているため、職務に積極的な職員は行うものの、その他の職員は一切行わないといったことがしばしば見られる。その結果として、特定の熱心な職員に業務が集中したり、一方で、そのノウハウや人的ネットワークが個人に所属し担当者が変わると全く引き継がれないといった課題も見られる
- ・そこで、本劇場では、これらの活動を、劇場職員として行うべき業務と位置づけていきたい。

(3)得られる効果

以上のような活動は、劇場職員の行うべき業務内容をどこに置くかという問題であるため、職員に専門性と意欲があれば、特に経費が大きくなるということではない。

しかし、それにより得られる効果は非常に大きいと想定される。具体的には次の通りである。

地域の才能の発掘と育成

- ・地域の劇団等が公演を行う際に、劇場の制作担当者が公演を見て、アドバイスを行う。これにより、劇団のレベルアップが図られ、徐々に全国にも通用する劇団へと育成されていく
- ・また同時に、劇場職員とこれらの地域の才能との間に信頼関係が生じ、例えば、自主事業で招聘したプロ劇団と地域の劇団の間との交流を図る等することで、地域の劇団の視野の広がり等を促進することも可能となる

北九州を基盤とする、全国に通用するプロ劇団の育成

- ・制作や劇団運営等について相談できる拠点がある、的確なアドバイスを得られる、全国のプロ劇団等とも交流ができるということであれば、舞台芸術等を行うことを目的として福岡や東京に出て行く必要はなくなる。特に才能ある劇団等は、これまでは、地域での受け皿がなかったため、地域外に流出しがちであったが、それを阻止することで、北九州を基盤とするプロ劇団育成も可能となるであろう

地域リーダーの発掘と育成

- ・一方、貸し館で劇場を利用する劇団の全てがプロを目指すレベルとなることは考えづらい。しかし、彼らは、プロにはならないとしても、舞台芸術等に興味を持ち、積極的に活動を行っている人々であり、劇場にとっては重要な存在である。「演劇人育成」だけでなく、彼らをよりよい観客、舞台芸術理解者として、また、地域リーダーとして育成していくことも重要な役割になっていくと思われる

劇場利用の促進

- ・ 以上のような体制づくりを行い、なおかつ、広報などでも支援を行うことで、他の劇場を借りるよりも、本劇場を借りる方が、地域の劇団等にとってもメリットが大きいということになる。このことより、貸し館の利用が促進されると想定される劇場が地域に根付くきっかけに
- ・ 公演を行いたいが無知無識な人々へのアドバイスを行う、常に相談にのる、したがって常に人々が劇場に訪れ賑わいが形成されている、といったことから、開かれた劇場としてのイメージが定着し、結果として、市民の日常生活の中に劇場が根付いていくきっかけとなると思われる

2 各種の自主事業への積極的な展開

以上のような貸し館事業と並行して、10年後の完成を目指して、各種の自主事業を積極的に展開していく。

(1)最初の5年間

1)【販わいの拠点事業】 観客の裾野拡大

エンターテインメント性があり、集客力がある作品の上演

- ・「より多くの人々に劇場に足を運んでもらう」ことを最大に考え事業を展開していく
- ・集客性の高いレパートリー(ただし劇場イメージを壊さないもの)などを多く実施することで、舞台芸術鑑賞者の裾野拡大に努める
- ・地域に舞台芸術を根づかせるための第一歩としてこの事業は非常に重要であるため、特にこの時期には積極的に行っていくことが望ましい
- ・当初(1年目)は、「ここに劇場ができた」「この劇場ではこういったテイストの事業を行っていく」ことをアピールするような作品を提供していくことが必要であろう
例)有名演出家によるプロデュース公演、東京や大阪で数千人規模の集客を果たしている現代演劇等の劇団など

広報営業体制の充実

- ・当初段階は「より多くの人々に劇場に足を運んでもらう」「ここに劇場ができたことをアピール」していくことが非常に重要である。したがって、劇場および個別公演の広告宣伝および広報を充実させていく
- ・また、チケットの団体営業、個人営業等についても、実際の公演実施を経ながら拡大強化し、ノウハウを得ていく
- ・会員制度についても、鑑賞者の裾野拡大や情報提供ネットワークとして位置付けると同時に、チケット販売網としても充実拡大していく

劇場の周辺環境の充実

- ・劇場ができた当時は、動線等で課題が発生することが多い。特に本劇場は複合施設であるため、来場者に向けたサインの充実、周辺の雰囲気づくりなどを働きかけていく
- ・また、自主事業、貸し館事業に関わらず、来場者の出迎えや座席案内、高齢者や身障者への高度なサービス提供を心がけ、来場者の満足度向上を図っていく
- ・さらに、周辺商業施設等と連携して、ビフォー・アフターイベントの充実を図っていく。

2) 【地域文化の拠点事業】 劇場や舞台芸術をサポートする地域の人材の育成

教育機関と連携してラーン・スルー・アートの試行

- ・学習をより効果的にするために、道具としての芸術（音楽、演劇、美術）を活用し、二次的には、芸術そのものの理解と関心の目を育成することができる。今後「豊かな心と生きていく力」を目標に進展する「総合的な学習」の中で、演劇の中に含まれる多くの教育的要素を活用することにより、子供達の自主性や協調性、創造力、コミュニケーション能力を養う事業を試行的に行う。

教育や福祉に演劇を活用する劇場外活動の試行・リーダーの育成

- ・教育や福祉現場で演劇等の肉体表現を治療等で用いるためのワークショップ等の指導ができるように、事業を試行していく中で地域リーダーを育成していく

劇場職員と地元劇団、他都市の劇団、劇場等との関係性づくり、信頼感の醸造

- ・一歩進んだ劇場運営のためには、劇場職員と演劇関係者との関係性づくりや、劇場への信頼感醸造が最も重要なものとなる。
- ・そのため、地元劇団、公演で訪れた他都市の劇団や演劇関係者と極力、強い関係性づくりを行っていくことが求められる

貸し館時における制作・技術アドバイス

- ・貸し館などで劇場を利用する団体などに、劇団職員が演出や作品内容等についてアドバイスするなど積極的に関わる中から、地域の新しい才能を発掘し、育成していく
- ・また、アドバイス等を行うだけでなく、例えば、公演のために来訪した全国のプロ劇団のホスト役を地元の演劇関係者に依頼して交流の場を設ける、優れた才能を持つ劇団等については、広報宣伝面での支援、劇場使用料の減免などの形で提携公演を提案するなどの方策も考えられる。

劇場が市民にとって身近な存在になる企画の実施

- ・市民が「作品の鑑賞」という一面的な形態だけでなく、多様な立場で劇場に足を運び親しみを感じるための各種の企画を行っていく。例としては、劇場のバックステージツアーなど含めて劇場を体験するワークショップ、自主事業公演で作家や演出家が作品の内容を公演前後に行うワークショップなどが考えられる

市民への公共劇場としての役割の周知

- ・「(仮称)北九州芸術劇場」が舞台芸術ファンに加え、芸術をツールとした劇場外活動を行うことにより、特に演劇を必要としない子どもや老人までを事業の対象とし、コミュニティ形成に役立つ事業展開を企画して行くことを市民に対して広報し、市民の理解を得る。

3) 【文化創造の拠点事業】 地元演劇人とプロを交えて完成度の高い作品を制作

舞台芸術を担う人材の発掘・育成

- ・製作等に関わる人材を積極的に育成していく。手法としては、例えば、一定期間の講座を開催する、演劇やダンスのワークショップ等を実施する等が考えられる

演劇講座の常設

- ・例えば、作家および演出、デザイナー（美術、照明、音響、衣装、音楽、振り付け等）、俳優、プロデューズおよび制作（企画と資金調達、広報宣伝、営業、票券管理等）、舞台芸術の歴史や理論および批評などについての講座を開設し、「いかにして演劇は創られているか」を提供することで、作品づくりに役立てるとともに、鑑賞力の高い観客を育成していく

次世代の演劇人のための演劇企画

- ・次世代(子ども、若年層)のため入門編として、演劇講座等を常設し、次世代の鑑賞者や演劇を担う人材の養成を図る。

(2) 次の5年間

1) 【販わいの拠点事業】 観客の裾野拡大+ステップアップ

エンターメント性が高く、集客力のある作品の上演に加え、芸術性が高く情報発信性のある公演の実施

- ・一定の観客の裾野拡大を踏まえ、次のステップとして、集客性の高いレパートリーに加えて、例えばコンテンポラリーダンス、海外（イギリス、フランス等）の演劇など、芸術性が高く話題になる公演も実施していく

民間興行者との共催・連携公演の増加

- ・当初の5年間で形成した民間興行者とのネットワーク、および劇場の認知度やステータスを活かして、民間興行者との共催・連携公演増加を図る

全国のプロ劇団・民間興行者の自主公演の誘致

- ・全国のプロ劇団や民間興行者が自主公演として行う全国ツアー等を積極的に誘致し、貸し館で多くのプロ公演が行われるように働きかけていく

2) 【地域文化の拠点事業】 劇場や舞台芸術をサポートする地域の人材の定着

教育や福祉に演劇を活用するリーダーの育成実践

- ・この時点では既に、最初の5年間で育成した地域リーダーたちが、教育や福祉現場で演劇等の肉体表現を治療等で用いるためのワークショップ等の指導を行っていることとなる。加えて、彼らが次世代のリーダー育成の手助けを行ってくれるよう、働きかけていく。

ホール職員及び地域リーダーによるアウトリーチ活動の実践

- ・各種のワークショップ等について、例えば地域の公民館での実施や小学校の総合学習との連携など、劇場の外での実施も検討していく

貸し館時における制作・技術アドバイス 地元劇団レベルアップ

- ・先の述べたような、貸し館などで劇場を利用する団体などに、劇場職員が演出や作品内容等についてアドバイスするなど積極的に関わる等を継続する一方で、ある程度育った劇団については、例えば、他地域での公演実施を支援して広く批評を仰ぐなど、更なるレベルアップを促進し、地元演劇界の活性化を図って行く。

国内外のホール、文化団体等との交流

- ・例えば、国内のホールと連携しての作品制作や買いつけ、海外の文化団体との作品交流を行うなど、国内外のホールや文化団体等と積極的に交流を図り、劇場全体のレベルアップを図る

3) 【文化創造の拠点事業】 北九州独自の完成度の高い作品を制作

作品制作、劇場運営等が地元スタッフにより行えるように本格的な舞台制作講座の開設

- ・アマチュアレベルではなく、完成度の高い作品制作を目指し、地域の人材を積極的に育成していく

地元スタッフでの作品制作

- ・各種の育成事業や貸し館での劇団等育成を背景に、本格的に作品の制作をおこなっていく。なお、これらは、レベルを問わない市民参加型作品制作事業ではなく、高いレベルの作品としていくことで、広く情報発信が可能となる

演劇講座の常設（継続）

次世代の演劇人のための演劇企画（継続）

次世代の演劇人のためのフェスティバル開催

- ・オーディションやコンクール、顕彰制度などを行うことにより、次代を担う才能あるアーティストを発掘し、支援を行う。

(3) 10年目 「劇場の善循環」の完成

以上で述べてきたような事業の実現により、10年目には、市民が「劇場に足を運ぶことが日常化」し、「地域リーダーを輩出して劇場運営やソフト展開を自ら行い」、そして「北九州独自の創造力・制作力をもってレベルの高い作品がレパートリー化されている」という状況が実現される。

その際には、これまで、ある意味では個別に目的をもってばらばらに行われてきた「賑わいの拠点事業」「文化創造の拠点事業」「地域文化の拠点事業」の3つの事業が、互いに深く関わりあい、リンクしながら展開されていることであろう。

例えば、具体的には、次のようなシナリオが考えられる

プロによる公演、プロによる作品制作

多くの魅力的な作品が行われることで、市民の演劇への興味を喚起することができる一方、劇場職員が作品制作の現場を学ぶ、あるいはプロの劇団等と交流することで、演劇等の内容や劇場運営ノウハウを学んでいく。

貸館 ホールを借りての発表公演

それらのノウハウを以って、地域の人材発見や貸し館での発表公演へのアドバイスを行っていく。

才能有る劇団等については、更なるレベルアップを支援し、北九州独自で全国に通用する劇団として育成していく

また、一部の劇団や人材等については、ワークショップリーダー、ボランティアリーダー、地域リーダー等としての活動の場を提供したり、協力を依頼したりする

そういった地域リーダーが増加することで、ワークショップ等の数の増加や質の向上が図られ、結果として、新しい劇団が生まれたり、演劇に興味を持つよりよい鑑賞者が育成される

舞台芸術への興味と見る目を持つ観客が多く存在する市場として、北九州市は魅力的な公演地となり、プロ公演が増加する

プロによる公演、プロによる作品制作の増加

貸館増加

以上のような循環が成立することが本劇場の目指す事業展開の望ましい姿であり、その完成に向けて、10年後を目指して、各種事業を計画的に展開していくこととしたい。